

## 目 次

<b>レッスン①</b>	「主題名」の付け方と「本時のねらい」の立て方	2
<b>レッスン②</b>	「主題設定の理由（授業者の指導観）（1）ねらいとする道徳的価値について」の書き方	4
<b>レッスン③</b>	「主題設定の理由（授業者の指導観）（2）児童の実態について」の書き方	6
<b>レッスン④</b>	「主題設定の理由（授業者の指導観）（3）教材について」の書き方	8
<b>レッスン⑤</b>	展開の前段における「発問」の作り方 その(1)	10
<b>レッスン⑥</b>	展開の前段における「発問」の作り方 その(2)	12
<b>レッスン⑦</b>	展開の後段の作り方	14
<b>レッスン⑧</b>	導入の作り方	16
<b>レッスン⑨</b>	終末の作り方	18
<b>レッスン⑩</b>	評価の仕方	20
<b>レッスン⑪</b>	「指導上の留意点」に書くべきこと	22
<b>レッスン⑫</b>	家庭・地域向け公開授業学習指導案の作り方	24

レッスン① 「主題名」の付け方と「本時のねらい」の立て方

## 道徳科授業に生きた「主題名」と「ねらい」を！

道徳科の「主題」とは、授業者が何を授業のねらいとし、そのねらいを達成するためにどんな教材を使い、それをどう活用するかについての「まとまり」を示すものです。この「主題」に対する意識の強弱が授業の成否を決めると言ってもいい程大切なものです。

- 一 具体的にドンピシャな主題名を付ける  
主題名は、ねらいとする道徳的価値と使用する教材で構成した主題を端的に表したものです。ですから、次のような主題名はNGです。
  - ×「友情・信頼」「正直・誠実」など内容項目のキーワードを主題名にしたもの
  - ×「泣いた赤おに」「はしの上のおおかみ」など教材名を主題名にしたもの
- つまり、小学校中学年のB「友情、信頼」

の教材「泣いた赤おに」と「絵はがきと切手」では、同じ「友情、信頼」ですが、それぞれの教材がもつ「主題」の内容が違います。ですから、当然主題名も違ってきます。

また、主題名は児童にも容易に理解できる具体的に分かりやすい名前を付けましょう。そして、その主題名は授業のどこかで児童の目や心に触れるようにしましょう。今までの主題名の多くは年間指導計画や学習指導案の中に登場するだけで、日の目を見ない影のような存在だったように思います。それでは余りにもつたいないと思います。

### 二 「本時のねらい」を鮮明に立てる

道徳科に限らずどの教科でも「本時のねらい」は立てます。「本時のねらい」とは「授業の出口」を示すものです。つまり、授業終

了時に児童が到達しているゴールラインを示すものです。したがって、ねらいが漠然としていて曖昧だと授業がぶれます。

その点、各教科の「本時のねらい」は具体的に分かりやすく、実にくっきりとして鮮明です。例えば、小学校第二学年算数の「3の段の計算の性質やきまりを見つける」などは極めてはっきりしたゴールで、授業者はそのねらいを明確に意識して授業に臨めます。一方、道徳科のねらいは教科に比べて抽象的で曖昧なものが多いように思います。

特に多いのが、  
・身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる  
・友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる など、  
学習指導要領の内容項目の文をそのまま引用し、語尾に心情や態度などの道徳性を付けたねらいです。

これでは「授業のゴール」が漠然としていてつかみどころがなく、ねらいを達成したのかどうかよく分かりません。その結果、手応えの感じられない虚しい授業の繰り返しとなり、教師自身、道徳授業がつまらなくなってしまうということがよくありました。

① 主題に即して具体的なねらいを立てる

第一のポイントは、本時の主題に即して具体的なねらいを立てることです。本時の学習で児童に深く考えさせたいことや深く考えさせたいところをねらいに組み込んで立てることです。

② ねらいの語尾をよく吟味する

二つ目のポイントはねらいの語尾です。道徳科の授業は、道徳的な「判断力」や「心情」「実践意欲」「態度」といった道徳

性（道徳的行為・行動の発条「ばね」となる内面的な力）を養うための授業です。

その道徳性の中で道徳的心情は特に重要な道徳性であると言えます。道徳的心情とは人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情のことです。善を喜び、悪を憎む感情とも言えます。そして、それはあらゆる道徳性の基盤となるものです。お城に例えるならば石垣に当たります。その豊かな心情の上に確かな道徳的判断力が培われな

ければなりません。

さらに、これら（心情、判断力）によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性や行為への身構えのことを実践意欲や態度というのです。

小学校の道徳授業は、とりわけこの道徳的心情を豊かにすることに重点を置くべきであると私は考えます。道徳的心情の裏打ちなき判断力の育成は、知恵ある悪魔を育てるようなものだと思うからです。まして態度の育成など、まだまだ先の課題です。

ところが、小学校一年生の指導案に「しよんとする態度を育てる」と書かれているねらいをよく見ます。「この授業者は道徳授業の特質を誤解しているのではないかとつい思ってしまう。「指導したことは即実践につなげなければならない」と。

小学校でこういう授業ばかり受けていると中学校の先生は道徳の授業がやりにくくて堪りません。人間としての生き方の機微に触れる感動的な教材を心を込めて生徒に提示しても、生徒は何も感じない、分からない、心に響かないのです。

まず、道徳的心情を豊かに育むことを大切にしたい授業を積み重ねていきたいと思います。

《望ましい主題名の例》

「しんせつって いいきもち」B[親切、思いやり]小㊦

（はしの上のおおかみ：文科省わたしたちの道徳）

「あきらめずにやりとげる」A[努力と強い意志]小㊦

（わたしの命は音楽とともに：東京都教材集）

「友達を信じる」B[友情、信頼]小㊦

（友の肖像画：文部省道徳の指導資料とその活用3）

「すがすがしい気持ち」A[正直、誠実]小㊦

（手品師：文部省道徳の指導資料とその利用1）

《望ましい「本時のねらい」の例》

人に意地悪するより温かく接する方がずっといい気持ちになることを自分との関わりで考える学習を通して、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる。

（B[親切、思いやり]小㊦：「はしの上のおおかみ」）

友達の青おにの大切さ、かけがえのなさに気づき、いつまでも泣き続ける赤おにの内面を自分とのかかわりで考え、話し合うことを通して、友達はいいものだと思い、友達を大切にしようとする心情を育てる。

（B[友情、信頼]小㊦：「ないた赤おに」）

## レッスン② 「主題設定の理由（授業者の指導観）」(1) の書き方

「ねらいとする道徳的価値について」哲学を深めよう！

本稿の学習指導案の形式は「学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編」（以下、「解説道徳編」という）のものに合わせていきます。

今回は「主題設定の理由（授業者の指導観）」の(1)ねらいとする道徳的価値についての考え方、書き方です。

道徳科では、授業者の「指導観」を明確にした授業を行うことが今まで以上に求められています。つまり、指導者は指導意図を明確にして指導を行うということです。（本稿ではこのことに常に触れていきます。）

「ねらいとする道徳的価値について」には何を書けばよいか？

「ねらいとする道徳的価値」とは学習指導要領 第3章特別の教科道徳 第2内容に

示されている内容項目のことです。（Aには六つ、Bには五つ、Cには七つ、Dには四つの内容項目が示されています。）

「ねらいとする道徳的価値について」には  
○本時で指導する「道徳的価値」とは一体何か？

○この価値は人間がよりよく生きる上で、どんな意味や意義があるのか？

○この価値はどうしたら身に付き実現するのか？

○このことについて授業者の考え（価値観）を書きます。

学習指導案を作成する中で、授業者はここでの思索に最も苦しむだろうと思われるかもしれません。なぜなら、今まで当たり前だと思っていたことを根本から疑い、考え直せという

ことですから。例えば、B「親切、思いやり」はなぜ大切なのか。親切とおせっかいはどう違うのか、相手が親切に付け上がることもあるのではないかなどと自問自答を繰り返しながら、最終的にその価値の大切さを根拠付けていくのです。

その苦しい思索を通して明らかになった授業者の**価値観**が授業を根底から支えます。深い授業を行うにはどうしても必要な思索なのです。ここでの思索がいい加減だと薄っぺらな授業になってしまいます。

なお、ここには教師の人生経験や教職経験による違いが表れます。

それでよいのです。初任者は初任者なり、ベテランはベテランなりの価値観でよいのです。授業者の真摯な考えを明らかにすることが大事なのです。

しかし、ただ闇雲に「価値観をもて！」と言うのではあまりにも乱暴過ぎます。

思索の際には「解説 道徳編」第3章第2節(1) **内容項目の概要**を手掛かりにしましょう。そこには道徳的諸価値についての国の解釈と解説が示されていますので、それを手掛かりにして自分の考えを深めましょう。

#### <小学校：C [家族愛、家庭生活の充実] 中学年 （40代女性教師）>

社会の中で一番小さい集団であり、基盤となる集団が家庭である。児童の人格形成は家庭にある。よって、親は自分の子供がよりよく生きるために時にはほめたり、本気で叱ったりもする。それは、親にとっては、子供は言葉ではいいつくせないほど大切なものであり、子供への思いが大きければ大きいほど、子供と真剣に向き合うからである。子供の幸せを願い、自分の命をかけても守りたいという無償の愛をもって育てているからである。

しかし、児童にとってはその思いがわからず、時には、自分は親から認められていないのではと不安になってしまうこともある。なぜならば、家族は、生まれた時から、いつも自分のそばにいてくれていて、どんなことがあっても自分を見放さずに支えてほしいと思っている存在だからである。特に小学校中学年ぐらいの児童にとっては、家族が自分にとって一番の存在であり、一番近い存在でもある。親の愛情をたくさん受け、親の愛情の深さを知ること、児童は、安心することができ、児童の心が安定する。

親や家族の深い愛情によって今の自分があること、また成長できていることを児童に気付かせていきたい。そうすることによって、児童が、自分が家族の大切な一員であるという実感を深め、自分も何かできないかと考えさせることで、家族と協力し合って、楽しい家庭を作っていきたいという心が芽生えると考えられる。

#### <小学校：B [友情、信頼] 中学年 （20代男性教師）>

人は、一人で生きていけない。様々な人とかかわるからこそ、悩み、喜び、成長していく。児童を取り囲む人々の中で、家族が大きな支えとなることはもちろんであるが、児童の心の中で重要な位置を占めるのは、友達の存在である。少しのことでも声をかけてくれたり、自分を気遣ってくれたりする友達がいると、ほっと心が安らぎ、自分は一人でないと感じることができる。また、困った時やつらい時に寄り添い、支えてくれる友達がいれば、友達は自分にとってかけがえのない宝物であることに気付くことができる。豊かな人生を送る上で、友達の存在は欠かせない。

しかし、互いが互いを理解し、信頼し、助け合う関係を築くことは容易ではない。友情とは、ただの仲良しではないからである。互いの立場を理解し、よさを認め合い、信じ合うことが友情である。そして、相手の行為を待つのではなく、お互いが友達のためを思って行動していく中に、強い絆が生まれていく。

#### <小学校：A [正直、誠実] 高学年 （50代男性教師）>

人間が健康的で明朗な自己像を描くためには、自分自身に対する誠実さをもつことや、明るく楽しい生活を心掛けることが大切である。うそやごまかしのある生活からは健康的で明るい生活は実現しない。したがって、自分自身に正直であることのすがすがしさを実感し、自覚し、そうした明るい生活を実現しようとする気持ちを育てることは大切である。

とはいえ、人は恐れや不安、損得利害や恥ずかしさなどから自分を守るために、つい嘘をついたりごまかしたりしてしまうことがある。このことは表面上相手に対する嘘やごまかし、裏切りといった形で表れ、一時的な凌ぎになるが、心の奥底で自分自身に対する大きな罪を犯しているのである。その結果、自分自身の心は曇り、元気がない生活に陥ってしまうのである。

自分自身の良心に誠実に生きるということは、自分自身の人間としての尊厳を静かに光らせ、輝かせることに他ならない。

### 肯定的で愛情ある「児童の実態」を述べよう！

児童理解とは、児童の実態を把握すること  
を言います。「教育は児童理解に始まり児童  
理解に終わる」と言われます。「児童理解に  
は終わりなどない」という人もいます。

それほど児童理解は教育の根本課題であ  
り、かつ重要課題なのです。

児童理解は目に見える表面的な理解にと  
どまるものではありません。児童理解は「人  
間とは何か」「児童とは何か」「人間はどのよ  
うに成長し、発展するのか」といった教師の  
尽きることのない人間探求心と深い児童愛  
とを伴うものでなければならぬ、とりわけ  
道徳教育は、児童の肉体的な成長に関わり、  
道徳性を伸長するために行う重要な教育で  
す。したがって、児童理解には極めて慎重で  
謙虚な態度が教師には求められます。

しかしながら、まだ多くの指導案の「児童

の実態」欄には重大な問題が散見されます。

その問題の記述は、概ね三段落で構成され  
ています。はじめに「本学級の児童は明るく  
元気で、男女仲がよく、浚刺として…」など  
という一般的なよさが書かれています。

第二段落になると、「しかし」とか「一方  
で」とかいう接続詞が用いられ、「ここが悪  
い、あそこが足りない…」と本時の指導内容  
に関する児童の欠点や短所がこれでもかと  
ばかりに列挙されています。

そして、第三段落では「したがって…」と  
か「そこで…」とかいう接続詞が用いられ、  
欠点改善・短所是正の指導方針が力強く述べ  
られています。

そんな児童観で道徳授業をされては児童  
はたまったものではありません。へこんでし  
まいます。

**道徳科授業は児童の短所を是正し、欠点を  
改善するためにあるのではない**

反省や懺悔の繰り返しは「僕はダメな人間  
だ」「私にはよいところがない」と自信を喪  
失させ、生きる意欲を萎えさせてしまいます。  
道徳科授業は児童に人間としての自信と  
誇りを育み、希望と勇気を与えるものでなけ  
ればなりません。「僕は人間としてまんざら  
でもないぞ」「私にもよいところがあるんだ」  
というような気持ちが湧いてくる授業にし  
なくてはなりません。

週に一度、児童は自己を見つめ、自己と対  
話しながら人間としての自信や誇りを自ら  
育んでいく、そんな授業にするために児童理  
解を見直し、確かめてみましょう。

#### 児童の実態把握、五つの留意点

☆ 児童を児童の「内面形成」と「行動傾向」  
の両面から把握し、それらを総合的に考察  
すること。

実態把握の方法には 調査法、検査法、  
作文・日記法、面接法、観察法、事例研究  
法など様々あるが、それぞれに一長一短が  
あるので、多様な方法を駆使して、総合的  
に実態を把握するように努めること。

＜小学校第3学年：C [家族愛、家庭生活の充実]の児童観の例＞

「ぼくの生まれた日」

本学級の児童は伸び伸びとしていて、屈託のない笑顔をたくさん見せてくれる。その様子からも家族からたくさんの愛情を受けて育っていることがよくわかる。行事などの前に、「お母さんに見てもらうために頑張る。」という発言があったり、普段よいことがあると、「お家の人に教えてあげるんだ。」と嬉しそうに話していたりすることが多い。また、冬休みの宿題で、家の手伝いをした時など、「たくさんほめてもらって、うれしかったよ。」など家族のためにやることの楽しさも感じている。

大好きな家族、お母さん、お父さんがどんな思いで自分を育てているかに気付くことで、さらに家族を敬愛し、自分が家族の一員であるという実感をもたせていきたい。そして、さらに自分が家族のために何かできないかを考え、家族と協力し合って、さらに楽しい家庭にしていきたいという気持ちを育てていきたい。

＜小学校第4学年：A [希望と勇気、努力と強い意志]の児童観の例＞

「ホームランを打ったことのない君に」

本学級の児童は、今までの道徳の時間において、先人の生き方から努力をすることの大切さや素晴らしさについての考えを深めてきた。学校生活の中でも、運動会や学芸会などの行事を通して、目標に向かって粘り強く取り組むことの大切さを指導してきた。本年度は、2学期・3学期に、「憧れの自分」を挙げ、それに向かって各自1週間ずつ目標を立て、取り組んできている。

これらの活動を終えて、児童は勤勉努力についてどう感じているか、アンケートを実施した。

「よりよい自分になるために自ら何かに取り組んだことがある」と答えた児童は学級の86%であった。「うまくいかない時は諦めるか。」という設問では、「諦めない(58%)」「諦める(3%)」「どちらもある(39%)」という結果が出た。また、「最後まで取り組むことは良いことだ」と考える児童は87%、「あまり良いとは思わない・分からない」と答えた児童は13%であった。ここから、最後まで粘り強くやり抜くことはよいことと理解していても、実際に何か困難にぶつかると途中で諦める時もあるという児童の実態があることが分かる。

そこで本時では、思うような結果が出ず、くじけそうになる主人公の弱さに共感させながら、人間としての弱さや脆さについての理解を深めるとともに、自分の掲げた夢に向かい努力を続けるひたむきな姿に尊さを感じることができるよう指導したい。

＜小学校第1学年：B [友情、信頼]の児童観の例＞ 「二わのことり」

本学級は、週に2回クラス遊びをするなど、大勢で楽しく遊ぶことが好きな児童が多い。授業中のグループ学習や、運動会の団体競技などで、友達と協力することのよさや楽しさを味わってきている。また、クラスで泣いている子がいると、必ず誰かが「どうしたの?」「大丈夫?」と声をかけており、友達を大切にしようとする気持ちも育ってきている。

そこで本授業では、自分を認め励ましてくれる友達のよさを実感するとともに、さらに友達を大切に、助け合おうとする心情を育てたい。

☆ 主題設定理由の(1)「ねらいとする道徳的価値について」に照らして、児童の「今できていることのよさ」を具体的に認め、更なる可能性を探り、示すこと。  
☆ 道徳教育の全体計画別葉の中から本時

☆ 児童の実態に基づき、本時でさらに深めたい重点を明記すること。(スモール・ステップでよい)  
☆ 本時の指導内容と関係のない一般的な実態の記載は不要であること。  
☆ 本時の指導内容に具体的な記載すること。

解に徹することが何より大切です。  
いずれにしても、肯定的で愛情ある児童理解

## 「教材について」（教材観）を熱く語ろう！

教材は子供の心を映す鏡であり、生き方の糧となるものでなければなりません。

その意味で教材は道徳科授業の「命」といえます。教材の良し悪しで授業が決まると言ってもよいでしょう。

ですから、教材選びに妥協は許されません。

### よい教材を選ぶ、これが一番大事！

よい教材とは「ねらいに合っている」「分りやすい」「興味・関心がもてる」「臨場感がある」教材のことを言います。教師が惚れた教材は間違いなくよい教材といえます。よい教材は子供の心を鮮明に映し出します。

一方、よくない教材にはそれがありません。子供を直そうとする「下心」がチラチラ見えて、実に胡散臭い感じがします。こういう教材はお風呂場の鏡のように子供の心を何も

映さず、そしてすぐに忘れ去られます。

そもそも道徳の時間は、教師が子供の心に（道徳の）「種を蒔く」時間です。

種を蒔くのが教師の仕事です。しかし、芽を出し、花を咲かせるのは子供の仕事です。

蒔いた種は芽が出ないかもしれませんが、花は咲かないかもしれませんが、種は生えないのです。だから、種は蒔き続けなければなりません。それが教師の仕事です。

せっかく蒔くなら良質の種を蒔く、それが教師の誠意というものだと思います。その種とは教材のことです。

道徳科授業は、子供が自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めるために行う授業です。自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めるのは子供自身です。

それなのに、外側から児童に望ましい行

為・行動の仕方を押し付けようとする教材のことを「よくない教材」というのです。そういう教材をいくらいじってもよい授業にはなりません。そもそも心の映りがよくないのです。ですから、道徳の授業では「よい教材を使う」ことが何より一番大事なのです。

よい教材は教師の心で探しましょう。ただぼーっとしていてもよい教材には出会えません。まずはたくさん教材を読みましょう。（とは言え、道徳科には採択教科書の使用義務があります。しかし、採択教科書以外の教材は全く使用できないかというところではありません。「解説 道徳編」106ページを参照するとともに、地教委にも確認しましょう。）

また、教科書の教材で原作があるものは原作も調べてみましょう。教材理解が一層深まり、指導のポイントがより明確になると思います。さらに、児童の実態に合ったよりよい教材改作に発展させることができるかもしれません。

### 教材観を熱く語ろう

よくここに教材の粗筋だけ書かれた指導案を見ますが、それはあまり意味がありません

主題名 より高い目標をめざして

内容 A[希望と勇気、努力と強い意志]

教材名：宇宙をめざして（自作） 中学校第3学年用

本教材は惑星探査機「のぞみ」と「はやぶさ」の事実と映画「おかえり、はやぶさ」のストーリーをあわせて平林和枝が改作したものである。（教材中の名前は仮名）

7年におよぶはやぶさプロジェクトチームの苦闘は筆舌に尽くしがたいものである。どうしてそこまでがんばれたのか、調べていくうちに、そのまえの火星探査機「のぞみ」の存在が浮かびあがってきた。そして、ここでがんばらねば日本の宇宙開発の未来は無い、二度と失敗を繰り返すわけにはいかないという強い危機感が感じられた。

米国・露国(含むソ連)両国合わせ30数回火星に探査機を打ち上げ、計20数回失敗しているのとは違い、日本初の打ち上げなのに失敗は許されない雰囲気は日本にはある。それなのに、いざ打ち上げとなると、小さい船にあれもこれもと沢山積みこまされ、それも失敗の一因ではないかと言われるくらいである。

さらに、今の宇宙ブームと違い当時は惑星探査への国民の理解も乏しい。「はやぶさ」でさえ帰還する時、マスコミの扱いは軽かった。大きく取り上げられるようになったのは、その後である。

本時では失敗に苦しむ大橋博士の葛藤を役割演技をとおして考え、ねらいにせまりたい。

主題名 かけがえのない命 内容 D[生命の尊さ]

教材名：たったひとつのたからもの（学校図書 一部改作）

小学校第5学年

本教材は、心臓に重い障害をもって生まれた子供を両親が深い愛情で包み、一生存命その命を支えた6年間の記録である。1歳まで生きられるかどうか分らないと宣告されたにもかかわらず、秋雪君はたくましく生き抜いた。両親はどんなに大変な状況でも、我が子へ深い愛を注ぎ続けた。

母である著者は「どんなに苦しい状況であっても、今の命を精一杯生きることが人としての幸せ」と訴えている。

この教材を通して、親がどんな気持ちで子供を愛しているかを感じさせたい。そして、そんなに愛されているあるがままの自分を自分で愛し、出来ることを一生懸命やって生きていくことが大切なのだと気付かせたい。

ん。ここには、

\* ねらいとする道徳的価値の自覚を深める上で、なぜこの教材を使うのか？

\* 何を考えさせるために、この教材のどこ

にスポットを当てて、どんな学習活動を行

おうとしているのか？

などについて、教材提示や板書計画などに

も触れながら熱く語ることで大事です。

教師が惚れた教材を使うから授業は熱を

帯び、指導に迫力が出るのです。

使用する教材に妥協は許されません。

ここに、教材づくりの名人平林和枝先生

と、教育愛あふれる教職歴五年目の若き女

性教師の教材観を示します。教材への熱い

思いが伝わってきませんか？

## レッスン⑤ 展開の前段における「発問」の作り方 その(1)

### 的を射た発問を構成するには教材分析が不可欠！

道徳科の学習指導過程について「解説道徳編」は「導入」「展開」「終末」の三つから解説しています。

それでもよいのですが、今後道徳科の進捗とともに、目標にある「自己を見つめ」「自己の生き方についての考えを深める」学習がより重視されていくことが予想されますので、本稿では学習指導過程の「展開」部分の子供が「教材とかかわって行う学習」（展開の前段）と「自己を見つめる学習」（展開の後段）とに区分して構成することにします。なお、学習指導過程の作成手順ですが、①展開の前段→②展開の後段→③導入→④終末の順で作成すると比較的効率的に学習指導過程ができていきます。

さて、今回の**レッスン⑤**と次回の**レッスン⑥**では「**展開の前段**」の発問構成を演習の形を通して習得します。

的確な発問を作るためには**教材分析**が不

可欠です。最初は手間がかかりますが、その手間を惜しんでは的確な発問構成はできません。発問は経験や勘で作るものではありません、根拠を明確にして作るものです。

#### 一 発問する人物を一人に絞る

教材にはいろんな登場人物が登場しますが、その中の一人を追いかけていくと授業が深まると言われています。その際、立派過ぎない「人間くさい登場人物」を選びましょう。本演習（「はしの上のおおかみ」…わたしたちの道徳）ではおおかみを追うことにします。

#### 二 場面分けをできるだけ細かく行う

教材文の各行頭に通し番号を打ちます（最終行は47になります）。次に「**おおかみの内面**」が微妙に変化するところで細かく場面を分けていきます。（左の分析表のA欄参照。読点で分けられることもあります。）

なぜ細かく分けるかというと、子供は先生からピンポイントで問われると考えやすく、話合いもかみ合いやすくなるからです。

#### 三 各場面のおおかみの内面（気持ち、思い、考えなど）を全て書き出す

次に、各場面におけるおおかみの内面をできるだけ多く書き出していきます。「この場面を子供に問うたら、どんなことを考えるだろう？」どんなことを発言するだろう？」と一人一人の顔を思い浮かべながらおおかみのありとあらゆる内面を全て書き出していきます。（分析表のB欄参照）

この時、いわゆる大人の常識に囚われてはいけません。子供の反応を多様に予想するのは、こうして全て予想しておけば授業中の子供の発言は全て想定内となり、思いもよらぬ発言に教師がうろたえることはありません。何よりも構造的な板書計画に役立ちます。

これで発問構成のための準備は完了です。次回の**レッスン⑥**では、全12場面の中から、**まず中心発問場面**を一つ選びます。続いて残りの中から**基本発問場面**を二つ選びます。

「はしの上のおおかみ」教材分析表

内容 B[親切、思いやり]

<わたしたちの道徳 小学校1・2年(文科省)>

※(教材文の)各行頭に1から通し番号を打っておく(最終行は47行になる)

A 場面の概要 key word	B おおかみの内面	C 発問
①1行目～2行目 山の中の谷川の1本橋		
②3行目～10行目 うさぎに「こら、こら」 「もどれもどれ」と言う。	・何だ、うさぎか ・弱そうだ ・邪魔だ ・脅かしてやろう ・意地悪してやろう ・俺様が先に通る ・俺は強いぞ ・俺は怖いぞ ・食べちゃうぞ	
③11行目～13行目 うさぎがもどっていく。 「えへん、えへん」	・いじわるって面白いな ・威張るって楽しいな ・いい気持ち ・俺は強い ・参ったか ・もっとやりた い ・次は誰かな ・だれか来ないかなあ	
④14行目～18行目 きつねやたぬきを追い返す。「こら、こら」「もどれもどれ」	・きつねもたぬきも弱いな ・また戻らせた ・たまらないな ・いじわるって面白いな ・楽しいな ・次は誰かな ・森の動物みんなにいじわるがした ・俺が一番強い	

⑤19行目～22行目の読点、⑥22行目の読点～23行目、⑦24行目～25行目は省略

⑧26行～30行 くまがだき上げて、後ろへおろす。	・えっ! ・何で? ・やさしいな ・ありがとう ・ホッとした ・落とされなくてよかった ・嬉しいなあ ・怖いくまじゃなくてよかった ・親切だなあ ・こんな方法があったんだ	
⑨31行～32行 くまの後ろすがたを見ている。	・かっこいいなあ ・やっつけられると思った ・びっくりした ・大きい背中だなあ ・また会いたいなあ ・俺もこうすればよかった ・ありがとうと言えばよかった ・小さい動物たちに謝ろう ・優しくまだな ・どこに行くんだろう ・くまみたいになりたいな ・今度からくまみたいにして	
⑩33行～42行 うさぎを後ろにおろしてやる。	・引き返さないで ・もう怖がらなくて大丈夫 ・いい方法があるよ ・優しくするよ ・意地悪しないよ ・親切にするよ ・いい方法だろ? ・うさぎは喜ぶかな ・うさぎはびっくりしたかな ・うさぎは軽いな	
⑪43行～45行 「えへん、へん」 前よりずっといい気持ち。	・親切にするっていい気持ち ・うさぎが喜んで嬉しい ・意地悪していたときよりいい気持ち ・まえの「えへん、えへん」と全然違う ・今の方がずっといい	
⑫46行～47行 「これにかぎるぞ」 晴々とする。	・親切にするといい気持ちになれるんだ ・意地悪はやめた ・小さい動物には優しくしよう ・もっともっと優しくしよう ・これからずっとこんな気持ちでいよう	

## 的を射たシャープな「発問」を作ろう！

### 一 まず、中心発問場面を一つ決める

教材分析表をもとに中心発問場面を一つ決めます。(中心発問とは「本時のねらい」に直接迫る発問のことです。)

本時のねらいは「身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる」ですから、おおかみが「身近にいる小動物たちに温かい心で接するって本当に大切だな!」「親切にすると気持ちがいいな!」と一番強く、一番深く、一番純粋に思っている場面を一つ選びます。それはどこでしょう? 少なくとも、おおかみがびっくりしたり、迷ったり、反省したりしている場面ではありません。中心発問場面はおおかみの内面がねらいとする道徳的価値で最も純粋に「満たされている場面」です。

その候補として⑧〜⑫の場面が挙げられ

るのではないかと思います。

いずれの場面も中心発問場面として全般的外れではないと思います。しかし、的のど真ん中を射ているか、ただ的に当たっているだけの違いはあります。(指導案検討会をこの分析表を基にして行うと論拠のつきりした検討会になること間違いなしです。)

ドンピシャの中心発問場面は⑪か⑫です。どちらも「ど真ん中」です。が次に進むために私の好みで⑪を中心発問場面にします。

### 二 本時のねらいを吟味し、具体的に作る

次に、「本時のねらい」を中心発問場面と絡めて具体的に検討します。

「人に意地悪するより温かく接する方がずっといい気持ちになることを自分との関わりで考える学習を通して、身近にいる人に

温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる。」

### 三 基本発問場面を二つ決める

次に、中心発問場面⑪をしっかりとサポートする基本発問場面を二つ決めます。それ以上は時間的に無理です。深まった学習ができません。中心発問場面を決めるより、この基本発問場面を決める方が悩み、また面白いと思います。要は子供達をどう導くか(攻めるか)の授業戦略の問題で、そこに授業者の個性や指導の意図が如実に表れます。(ちなみに私は③と⑨を基本発問場面に選びました。)

なお、発問順は、(1)基本↓(2)基本↓(3)中心、または(1)基本↓(2)中心↓(3)基本という構成はあり得ますが、(1)中心↓(2)基本↓(3)基本という構成は普通あり得ません。

### 四 三つの発問を具体的に作る

決定した三つの発問場面のおおかみの内面(教材分析で書き出したB欄)をさらに充実させ、その内面が全て出てくる問い方を工夫します。言い回し一つで子供の反応は変わります。気持ちを訊く、考えを訊く、思いを訊くなど、よくよく推敲しましょう。

「はしの上のおおかみ」教材分析表

内容 B[親切、思いやり]

<わたしたちの道徳 小学校1・2年(文科省)>

A 場面の概要・key word	B おおかみの内面	C 発問
①1行目～2行目 山の中の谷川の1本橋		
②3行目～10行目 うさぎに「こら、こら」 「もどれもどれ」と言う。	・何だ、うさぎか ・弱そうだ ・邪魔だ ・脅かしてやろう ・意地悪してやろう ・俺様が先に通る ・俺は強いぞ ・俺は怖いぞ ・食べちゃうぞ	
③11行目～13行目 うさぎがもどっていく。 「えへん、えへん」	・いじわるって面白いな ・威張るって楽しいな ・いい気持ち ・俺は強い ・参ったか ・もっとやりた い ・次は誰かな ・だれか来ないかなあ	(1)もどっていくうさぎを見ておおかみは、どんな気持ちで「えへん、えへん」と言ったでしょう。
④14行目～18行目 きつねやたぬきを追い返す。「こら、こら」「もどれもどれ」	・きつねもたぬきも弱いな ・また戻らせた ・たまらないな ・いじわるって面白いな ・楽しいな ・次は誰かな ・森の動物みんなにいじわるがした ・俺が一番強い	

⑤19行目～22行目の読点、⑥22行目の読点～23行目、⑦24行目～25行目は省略

⑧26行～30行 くまがだき上げて、後ろへおろす。	・えっ！ ・何で？ ・やさしいな ・ありがとう ・ホッとした ・落とされなくてよかった ・嬉しいなあ ・親切だなあ ・怖いくまじゃなくてよかった ・こんな方法があったんだ	
⑨31行～32行 くまの後ろすがたを見ている。	・かっこいいなあ ・やっつけられると思った ・びっくりした ・大きい背中だなあ ・また会いたいなあ ・俺もこうすればよかった ・ありがとうと言えばよかった ・小さい動物たちに謝ろう ・優しくまだな ・どこに行くんだろう ・くまみたいになりたいな ・今度からくまみたいにしよう	(2)くまの後ろ姿を見ながら、いつまでも……おおかみはどんなことを思っていたでしょう。
⑩33行～42行 うさぎを後ろにおろしてやる。	・引き返さないで ・もう怖がらなくて大丈夫 ・いい方法があるよ ・優しくするよ ・意地悪しないよ ・親切にするよ ・いい方法だろ？ ・うさぎは喜ぶかな ・うさぎはびっくりしたかな ・うさぎは軽いな	
⑪43行～45行 「えへん、へん」 前よりずっといい気持ち。	・親切にするっていい気持ち ・うさぎが喜んで嬉しい・ 意地悪していたときよりいい気持ち ・まえの「えへん、えへん」と全然違う ・今の方がずっといい	(3)前よりずっといい気持ちで「えへん、へん」と言ったおおかみは、一体どんなことを考えていたでしょう。
⑫46行～47行 「これにかぎるぞ」 晴々とする。	・親切にするといい気持ちになれるんだ ・意地悪はやめた・ 小さい動物には優しくしよう ・もっともっと優しくしよう ・これからずっとこんな気持ちでいよう	

## レッスン⑦ 展開の後段の作り方

### 自己を見つめ、自己の生き方を考える展開の後段にしよう！

展開の後段では、展開の前段の学習で深めた道徳的価値の自覚に基づき、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習をします。

た道徳的価値の自覚が生かされず、子供の思考の流れは切れてしまっています。

#### 一 主題に基づいて自己を見つめる！

すでに何度も触れましたが、道徳科の「主題」はねらいとする道徳的価値とそれを達成するための教材によって構成されます。

したがって、展開の後段もこの「主題」から逸脱することなく、展開の前段の学習の流れに添って自己を見つめることができる学習課題を設定する必要があります。

そうしないと展開の後段の学習課題は子供にとって何とも唐突で、一般的で、漠然とした課題になってしまいます。

それではせっかく展開の前段で深めてき

#### 二 自己を深く見つめるための諸配慮！

展開の後段の学習は極めてプライベートな学習です。ですから、ここでの学習は子供のプライバシーに十分配慮する必要があります。「自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習」は、そうした配慮の上になり立つのです。（その点、展開の前段で行う学習は教材の登場人物に自己を投影して行う学習ですから、そうした配慮の必要はほとんどありません。）

#### 原則、発表を前提としない

発表を前提にして自己を見つめるのと、発表を前提としないで見つめるのでは、どちらが安心して自己を見つめられますか？

このことを考えれば容易に理解できることです。子供の自尊心や誇りは尊重されなければなりません。

また、発表が前提だと子供は無意識のうちに発表してもよい程度までしか考えません。ただし、低学年はポジティブなことであれば発表させてもよいのではないかと思えます。しかし、ネガティブなことはNGです。

#### 単なる経験の想起や決意表明に陥らない

漠然と「今までに〜したことはありますか？」と問われると多くの子供は戸惑い、「ない！」で終わってしまいます。ですから、想起しやすいよう主題に沿って具体的に問うことが大事です。

また、「あなたはこれからどうしますか？」などの決意や努力を迫るような問いかけは気を付けましょう。どうしたらよいかくらい子供は分かっています。でも、できない自分のこともよく分かっているのです。低学年ならまだしも、それ以上の学年になると先生の顔色を見て考える子が増えていてしまいます。

#### 机の配置に配慮する

座席は常にその学習活動にふさわしい形に配置することが大切です。教材提示や先生

のお話を聞くときは先生と一対一の関係になれる前向きに、みんなで話し合う時はコの字型に、グループでの学習は…というように。では、自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める学習の時はどうでしょう？自己を見つめる学習の時は他者の目が気にならない前向きがよいと思います。

**ワークシートは小さめがよい**

書く活動を取り入れるなら、ワークシートは小さめにしましょう。大きなワークシートが配られると、その大きさに圧倒されて学習課題に集中できない子が出てきてしまいます。そしてたくさん空白を残して提出…書く活動は今日も達成感を味わうことなく終わってしまいます。(このことは書く活動全般に言えることです。)

お薦めはA6判です。これならプレッシャーはありません。罫線など引かず文字の大きさは子供に任せましょう。たくさん書きたい子は小さな字で書きます。そうでない子はそれなりの字で書きます。「もつと書きたい」子は裏に書いていいことにしましょう。それでも「足りない」と言う子には「もう一枚あげるからおいで」と言いましょう。要は、書くことに苦手感や困り感をもっている子に

「展開の後段」の例 (左枠：学習活動 右枠：指導上の留意点)	
主題名：人にやさしく (ぐみの木とことり) 小学校第1学年 B[親切、思いやり]	
○ 困っている人から「ありがとう」と言われて、「よかった!」と思ったことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A6の紙に記入させる。</li> <li>・ 行為だけでなく、そのときの自分の気持ちも振り返らせる。</li> <li>・ 発表はさせない。</li> </ul>
主題名：友達を信じる (友の肖像画) 小学校第5学年 B[友情、信頼]	
○ 一番大好きな友達を一人思い浮かべましょう。その友達に今日勉強したことを伝えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展開の前段を振り返ってから課題を示す。</li> <li>・ A6判の用紙</li> </ul>
主題名：明るい気持ちで生きる (屁：新美南吉) 小学校第6学年 A[正直、誠実]	
○ 自分を守るために人に嘘をついたり誤魔化したりした時、どんな気持ちになりましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1分間、目をつぶって振り返らせる。</li> <li>・ 発言はさせない。</li> </ul>
主題名：許されるということ (銀のしょく台) 小学校第6学年 B[相互理解、寛容]	
○ 大きな失敗をして人に大変な迷惑をかけ、「もうお仕舞いだ!」と思ったときに、人から許してもらって本当に嬉しかったことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A6の紙に記入させる。</li> <li>・ 出来事やそのときの気持ちと同時に、今の気持ちも考えさせる。</li> <li>・ 発表はさせない。</li> </ul>

配慮することが大事だということですが。さらに、書く時間は5分以上は設けましょう。

## レッスン⑧ 導入の作り方

### ぶれない授業のための確かな導入を作ろう！

学習指導過程は、展開の前段↓展開の後段  
↓導入↓終末の順で作ると比較的効率的に  
指導案ができていきます。

今回は**導入**の作り方です。

導入では、子供が学習課題（学習の方向）  
をつかみ、学習意欲をもつ学習をします。導  
入で子供の意欲に火が点くと後は放ってお  
いてもどんどん学習が進みます。ですから導  
入を疎かにしてはなりません。導入がうまく  
いけば授業のその後もうまくいくはずです。

#### 一 「主題」に基づいた導入を構想する！

何度も繰り返しますが、道徳科の「主題」  
はねらいとする道徳的価値とそれを達成す  
るための教材によって構成されます。

したがって、導入はこの「主題」を強く意  
識して考えましょう。

「主題」をあまり意識しないで行う導入は、  
どこかぼんやりしていてつかみどころがな  
く、本時の学習の方向や課題がはっきりしな  
いままになってしまいます。

導入では、本時の「ねらいとする道徳的価  
値」のどの側面を焦点化し、どんな道徳性を  
育てるために行う授業なのかをしっかりと意  
識して課題作りをしましょう。

#### 二 「価値への導入」を基本とする！

導入には、大きく分けて「ねらいとする道  
徳的価値に関する導入」と「教材の中味や背  
景に関する導入」の二つがあります。

導入は「価値への導入」を基本としましよ  
う。学習の方向付けや学習課題の意識付けが  
明確になり、授業がぶれにくくなります。

「教材への導入」は一度の教材提示だけで

は子供の教材理解が十分に果たせないと判  
断した時だけに限ります。例えば、「青の洞  
門」がそうです。つちとのみ、三百羽の長さ、  
二十一年の歳月、親の仇討を果たさなければ  
家の再興はおろか帰郷すら許されない時代  
の道徳観などについての理解がないと、この  
教材の深い理解はできません。（こういう教  
材は他にもありますので注意しましょう。）

昔、「手品師」の授業で、授業者は特技の  
手品を導入で行おうと考え、スーツにシルク  
ハット、ステッキといういで立ちで登場する  
や、軽快なBGMに乗って、ステッキの中か  
ら色とりどりの花を取り出したり、帽子の中  
から白い鳩を飛び立たせたりしました。これ  
には子供たちは大喜びで、やんややんやの大  
喝采、導入は大盛り上がりで終わりました。  
ところがその後がいけません。子供たちは  
「どこに鳩を隠していたのだろう？」「ステ  
ッキにあんなにたくさんのお花が入っていた  
なんて、信じられない！」とそのことばかり  
が気になって全く授業に集中できないので  
す。手品のことくらいで「教材への導入」を  
するなど言うことです。

それでも子供の「教材理解が心配」という  
場合は、（展開の前段の）教材提示の前に主

な登場人物を紹介したり、教材のあらましを概説したりするとよいでしょう。そのことを「指導上の留意点」に書いておくことと忘れずすみませす。

### 三 抽象思考に子供を引き込まない！

よくやってみてしまいがちなのがこれです。

子供は概して抽象思考が苦手です。ですから「誠実とは何ですか？」とか「正直な人はどんな人のことですか？」などの問いは要を得ません。子供の中には考えられる子もいますが、大多数の子供はとんちんかんなことを考えてしまうのが実際です。ですから、内容項目のキーワードの意味やことばの概念を問うような発問は厳に慎みましょう。

導入は、子供が「具体的」に考えられる課題にすることが肝心です。（なお、授業全体を通してこのような抽象的な言葉の意味は問わないように注意しましょう。）

以上述べてきましたが、最後にひとつ、教師の説話を導入で行うのも大変効果的です。子供は教師の人間性がにじみ出る体験談に大変興味を引かれますし、何と言っても主題になかったドンピシャの「価値への導入」ができます。

「導入」の例 (左欄：学習活動 右欄：指導上の留意点)	
主題名：すがすがしい気持ち (手品師) 小学校第6学年 A[正直、誠実]	
<p>1 すがすがし気持ちについて考える。</p> <p>○ どんな時に「すがすがしいなあ」と思っています(ました)か。</p> <p>今日は「すがすがしい気持ち」について考えていきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を具体的に想起させ、交流させる。</li> <li>・様々なすがすがしさに共通する「澄んだ、曇りがない状態」を押さえる。</li> </ul>
主題名：大切な友だち (泣いた赤おに) 小学校第3学年 B[友情、信頼]	
<p>1 大好きな友だちのことを考える。</p> <p>○ 一番大好きな友達を一人思い浮かべましょう。</p> <p>その友達のどんなところが好きですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目をつむって考えさせる。</li> <li>・想起する時間を十分にとる。</li> <li>・名前は言わせない。</li> </ul>
主題名：あたたかいところで (ぐみの木とことり) 小学校第2学年 B[親切、思いやり]	
<p>1 やさしくされたときの気持ちを思い出す。</p> <p>○ 本当に困っていた時、誰かに助けてもらってうれしかったことはありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本当に困っていた時」を強調し、その経験を具体的に想起させる。</li> <li>・児童の発言を共感的に受け止める。</li> </ul>
主題名：感動の涙 (青の洞門) 小学校第6学年 D[よりよく生きる喜び]	
<p>1 実在する「青の洞門」について知り、教材への興味・関心をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青の洞門の写真をテレビ画面で映す。</li> <li>・鎚と鑿の実物を提示する。</li> <li>・主な登場人物を紹介し、教材のあらましを概説する。その際、21年の歳月と当時の道徳観にも触れる。</li> </ul>

## レッスン⑨ 終末の作り方

### 自尊心や自己肯定感が高まる終末を作ろう！

学習指導過程の最後は終末についてです。

終末では本時の学習を通して考えたことや思ったことを確かめたり、更に深く心に留めたり、これからの自分へのポジティブ感を高めたりする学習をします。そのための学習活動は様々な工夫されています。

#### 一 教師の説話

これはよく行われています。中には「終末では説話をしなければならぬ」と勘違いしている人もいます。そんなまじりはありません。

しかし、教師の説話には侮れない感化力があります。教師の人間性がにじみ出る説話は、子供の心情に訴え、深い感銘を与えることが多いのです。

授業によっては展開の後段の前に教師の体験談を語ると効果的な場合があります。それは教材の内容や舞台などが子供の日常生活とか離れ過ぎていて、前段と後段の間のギャップが大き過ぎるのではないかと判断される場合です。教師の説話が子供の体験想起を促す具体的なきっかけになるのです。

#### 二 家族からの手紙

C「家族愛、家庭生活の充実」やD「生命の尊さ」などの授業の終末で家族からの手紙を渡し、それを読むという学習活動があります。これは非常に感動的な学習活動になります。しかし、この活動を行う上で幾つかの注意事項があります。

- ・ 全保護者の協力が得られる場合のみ行う。
- ・ 依頼する課題はシンプルに、かつ分量は少なく。（せいぜいB6判）
- ・ 「見ない、見せない、見られない」の厳守。
- ・ 絶対に発表などさせてはならない。
- ・ このような依頼は年に一回だけにします。

#### 三 スライドショー

日常撮りためておいた子供たちのスナップ写真を本時の主題に合わせて編集し、それ

をスライドショーにして映写する方法です。内容に合ったBGMを流すと、いい雰囲気が出ます。

### 三 名言、格言

本時の主題に合った名言や格言をプリントして持ち帰らせる方法です。「勉強机に一週間貼っておきましょう」と。

わたしより

わたしのことを

よく知っている

ときどき

わたしのことを

わたしより一生懸命になる

その友だちの

わたしは友だち

《友だち 関洋子》

都道徳教育教材集「心しなやかに」より

雨の日には 雨の中を

風の日には 風の中を

《相田みつを》

### 四 ゲストティーチャー

C「よりよい学校生活」、C「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」などの授業の終末で卒業生や地域の人、あるいはある分野に秀でた人などを招いて主題にまつわる体験などを語ってもらう方法です。ただし、ぶっつけ本番はいけません。主題や時間などについての事前の打ち合わせは必要です。

### 五 教材のつづき

「二わのことり」などの原作にはつづきがあります。今度はやまがらがみそさざいを助けるのです。それを読み聞かせるのもよいでしょう。

最後に、私が目頭を熱くした若手男性教師の涙の説話を紹介します。

### 初任3年目の教師、涙の説話 B[友情、信頼]

私は初めて先生になった3年前の5月、突然学校に行けなくなってしまいました。夜眠れない、朝起きられない、食べ物が喉を通らない…。学校に行こうとすると気持ちが悪くなり吐きそうになる日が続きました。「もう学校の先生は続けられない」と思いました。校長先生に「学校を辞めさせてください」と言いに行くと、校長先生は「君も急に環境が変わって疲れているのだろう。教員には休職という制度があるから、3ヶ月休んで疲れを取ってはどうか。」と言われました。

私は休職をして田舎の大分に帰りました。大分には中学校時代からの親友ショウ君がいます。先生はショウ君に会って全部話しました。先生はショウ君に叱られると思いました。駄目な奴だと軽蔑されると思いました。

でも、ショウ君は黙って先生の話聞いてくれました。そして、「そうか…。それは辛かったな、苦しかったな。俺はお前を情けないとは思わない。でもな、お前がどんなに小学校の先生になりたかったか、そのためにどんなに勉強したか、俺は全部知っている。コウタ、もう一度だけ頑張ってみないか。それでもだめだったら、また大分に帰ってくればいい。その時は二人で新しい生活を始めよう。」

先生は泣けて泣けてしょうがなかった…。

先生が今、こうして先生を続けていられるのは親友のショウ君のお陰だと思っています。

「評価の方法」より先に「評価の目的」を理解しよう！

「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」になつて、多くの学校が戸惑ったり困ったりしているのが「評価」です。「道徳性の評価はできるのか」「どうやって評価すればよいのか」など、どちらかと言うと評価方法に偏つた関心や心配が多いように思います。

今まで各教科で行ってきた評価とは違う異質の課題が「特別の教科 道徳」の評価にはあるのではないかと思うからでしょう。

一 道徳科の評価の目的は何か

（それぞれの授業のねらいに即して）児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価し、個々の児童の成長を促すとともに、それによって自らの指導を評価し、授業改善に努めること（解説108ページ）が道徳科の評価の目的であり、評価の意義です。

二 評価の基本方針

- ◇数値による評価は行わず、記述式であること
- ◇相対評価はせず、個人内評価であること
- ◇個々の内容項目ごとの評価ではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと
- ◇道徳性に関する評価はしないこと
- ◇入学者選抜の合否判定には活用しないこと

三 何を評価するか

- （学習指導要領に示された道徳科の目標に即して、その**学習状況**と**道徳性に係る成長の様子**について評価する）
- (1)道徳的諸価値についての理解の様子（価値理解、人間理解、他者理解について）

五 評価活動を行う上での留意事項

- \* まず、個々の児童の「学習状況」を具体的に、継続的に把握し続けること。
- \* 一時間に見取ることができる児童の数には限界があるので、把握可能な人数の範囲で評価をすること。
- \* 学習指導案上の「評価」の記載は、「学習指導過程」の欄の後に「評価」の項を設けるか、「指導上の留意点」欄の中に挿入するか、いずれかが考えられるが、いずれの場合においても、評価する内容と合わせて「評価場面」と「評価方法」を具体的に記しておくこと。

いづれにしても、評価活動を行うに当たつ

- (2)自己を見つめる様子
- (3)物事を多面的・多角的に考える様子
- (4)自己の生き方についての考えを深める様子
- (5)道徳授業への関心・意欲・態度

四 評価方法

学習への取り組み（読む、聴く、視聴する、考える、話す、書く、演ずるなど）の観察、質問紙・ワークシート等への記述内容、発言内容などを総合的にとらえて評価する

## 「学習状況」の評価例 <あくまでもイメージです>

### 【1年生 A[節度、節制] 「かぼちゃのつる」】

- ① 注意を聞き入れたくない気持ちが、自分の中にもあることに気付いて「これからちゃんと注意を聞こうと思う。」と発言した。
- ② まわりの人がどんな気持ちで注意をしているか、友達の考えを聞いて「そうか...。」とつぶやいた。自分の考えを広げ、価値の理解を深める姿があった。

### 【3年生 C[家族愛、家庭生活の充実] 「ブラッドレーのせいきゅう書」】

- ① 「今までは面倒だと思って家のお手伝いをしていたが、これからは大好きな家族のためと思ってお手伝いをしていきたい。」と自己の生き方についての考えを深めていた。
- ② 「親が子どもの面倒を見るのはふつうのことだと思っていたのが、幸せなことだと気付いたのではないか。」と発言した。話し合いの中で価値の理解を深める姿だった。

### 【5年生 B[友情、信頼] 「友のしょうぞう画」】

- ① 「友達の気持ちを深く考えないで（たぶん、こうだろう）と勝手に思うことが自分にもある。」と主人公に自分を重ねて考えることができた。
- ② 「これからは友達の身になって考え、気持ちを想像して声を掛けていきたい。」と自己の生き方についての考えを深めることができた。

## 「道徳性に係る成長の様子（指導要録や通知表）」の記入文の例

<あくまでもイメージです>

※ 通知表は保護者が容易に理解できる表現を工夫すること

### 【低学年】

- ① 友達の考えをよく聞き、自分の考えとの違いに気付けるようになってきている。
- ② 友達の考えにうなずいたり、つぶやいたりする姿が多くなり、価値についての理解を深められるようになってきている。

### 【中学年】

- ① 友達の話をよく聞き、共感するとうなずく姿が多く見られた。対話的な学びの中で価値についての理解を深めていた。
- ② 登場人物に自分を重ねながら自分との関わりで考え、発言する姿が多く見られるようになった。

### 【高学年】

- ① 判断の根拠は人によって違うことに気付くなど、多面的・多角的に考えるよさを感じていた。
- ② 友達の考えに真剣に耳を傾け、自分にはない考え方に会う学習を楽しみにする姿があった。

ては、評価のための評価にならないように注

意し、計画性をもって無理のない評価を重ね、

評価材を蓄積していくことが肝心です。

レッスン⑩「指導上の留意点」に書くこと

## 「指導上の留意点」を授業者の生きて働く備忘録にしよう！

「指導上の留意点に何を書けばよいか？」と悩む人は結構います。

この欄には文字通り「道徳科の授業を行う上で授業者が気をつける（注意する）ポイント」を具体的に記し、それを実際の授業で生かす、いわば授業実施上の授業者必携メモ、つまり「備忘録」ととらえればよいでしょう。

この欄に「発問意図」や「指導意図」などを書いていく指導案をよく見かけますが、それはあまり意味があると思えません。そんなことは学習活動欄や発問を見れば分ることです。書く必要はないと思います。

### 「指導上の留意点」に書くには？

#### ○座席の配置

学習活動を行う上で、それぞれの活動にふさわしい座席配置があるはずですよ。

#### ○児童への指示・説明

教材を読む視点の指示や難意語の説明などのポイントを書いておくと便利です。

#### ○学習活動のさせ方

グループ学習、ペア学習、書く活動、役割演技など、学習活動を行わせる上で児童に指示すべき留意点は多々あります。

#### ○教材の配布

授業中に児童に配布する教材配布のタイミング、回収のタイミングなどを記しておきましょう。

#### ○T・T方式など、協力的な指導

校長、教頭などの参加による指導ではその役割を具体的に記しておきましょう。

#### ○視聴覚機器等の取り扱い

機器の扱い、使用場所、撤去のタイミングなどを記しておくくと便利です。

#### ○教材提示の方法

どんな方法で、何に留意して教材提示を行うか具体的に記しておきましょう。

#### ○板書構成

板書計画を基に児童の発言を分類・整理するポイントや板書の活用について記しておきましょう。

#### ○ワークシートの扱い

その大きさ、書く時間、発表の有無などの留意点を書いておきましょう。

#### ○補助発問

あらかじめ設定した三つの主発問で十分な反応が得られなかったり、ねらいの方向から逸れる反応が出てきたりした場合に備えてあらかじめ用意しておくのが補助発問です。どんな時に補助発問を発するか、具体的に記しておきましょう。

#### ○指名の仕方・話合いのさせ方

話合い活動は一人一人が自分の考えをもつて行うことが大切です。いつ、誰から始めるか、何に留意して進めるか、などを具体的に書いておきましょう。

#### ○ゲストティーチャーの活用

保護者や地域等の人々の参加・協力を得て行う授業があります。その際、事前に

### 「導入」の例

主題名：大切な友だち（泣いた赤おに） 小学校第3学年 B[友情、信頼]

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 大好きな友だちのことを考える。 ○ 一番大好きな友達を一人思い浮かべましょう。 その友達のどんなところが好きですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目を閉じて考えさせる。</li> <li>・想起する時間を十分にとる。</li> <li>・名前は言わせない。</li> <li>・グループの形を作り、順番に紹介し合う。</li> </ul>

### 「展開の前段」の例

主題名：清々しい気持ち（手品師） 小学校第6学年 A[正直、誠実]

(1) (手品師が迷いに迷う場面を2:2で役割演技する) A 大劇場に出たい手品師 B 男の子との約束を守ろうとする手品師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2:2で向き合って行わせる。</li> <li>・必ず「でもね」と言ってから、交互に発言させる。</li> <li>・AとBの役割交代は必ず行う。</li> <li>・手品師の多様な考えを分類・整理し、板書に位置付ける。</li> </ul>
---	---

主題名：ともをおもうころ（二わのことり） 小学校第1学年 B[友情、信頼]

2 「二わのことり」を視聴し話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場する小鳥すべての名前をペーパーサートに書いておく。</li> <li>・臨場感あふれる教材提示に努める。</li> </ul>
---------------------	---

### 「展開の後段」の例

主題名：あたたかい心で（ぐみの木と小鳥） 小学校第2学年 B[親切、思いやり]

3 困っている人に「ありがとう」と言われて、「よかったです！」と思ったことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A6判の用紙に記入させる。</li> <li>・行為だけでなく、そのときの自分の気持ちも振り返らせる。</li> <li>・書く時間は5分設ける。</li> </ul>
--	--

### 「終末」の例

主題名：正直に言えないと苦しいな（どうするかじろう）

小学校第2学年 A[正直、誠実]

4 教師の苦い体験談を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いけないことをして正直に言えずに心が暗くなったことを話す。謝ったことでその気持ちが晴れていったことも加える。</li> </ul>
----------------	---

### ○ 説話

打ち合わせた役割等のポイントを記しておくとい良いでしょう。  
もし説話を行うならば、その内容や構成な

### ○ 評価

最近、「指導上の留意点」欄に評価を入れる  
た学習指導案が増えてきています。児童  
を簡単に記しておきましょう。

の「学習状況」をいつ、どこで、どのよう  
に評価するかについて具体的に記すこ  
とができて効果的です。

## レッスン⑫

家庭・地域向け公開授業用学習指導案の作り方

### 易しく、深く、面白い 公開授業用学習指導案を作ろう！

前回改訂の学習指導要領から、道徳授業を家庭や地域の人々に公開し、道徳教育についての共通理解を深め、相互に連携を図ることが記載されました。そのことにより、各学校では様々な形で授業公開を行っています。

ところで、公開授業の学習指導案はどうしていますか？

ないよりあった方がよいでしょうが、教師用の学習指導案をそのままというのはいかなるものでしょう。では、どんな点に留意して公開授業用を作ればよいでしょう？

#### 一 難しいことを易しく

教育専門用語は使わないことです。職業柄、私たちは日常普通に使っている言葉でも保護者や地域の人々にとっては馴染みのない、難解な言葉です。

したがって、一般的で分りやすい言葉を使うことに留意しましょう。

#### 二 易しいことを深く

しかし、授業の中味は深くなければなりません。教師の専門性がしっかり発揮されてこそ、「さすが、先生！」です。

そのためには、いきなり公開授業用の学習指導案を作るのではなく、まず教師用の学習指導案をしっかり作ることが肝心です。

中味が深いということはこういうことをいうのです。中味が浅い指導案を公開授業用に直したところで、やはり薄っぺらでつまらない指導案にしかありません。この「道徳科学習指導案作成(超) 入門」を手引きにして、探究心をもって、教師用の学習指導案を作成しましょう。

#### 三 深いことを面白く

易しく深くといっても固くて面白味のない内容では心が動きません。血の通った生身の人間の温もりが感じられる指導案を作りましょう。

道徳科授業は教師の人間性で行うものだということを忘れてはなりません。深い内容を面白くしましょう。

面白いというのは、人間くさいということです。温かさも冷たさも、強さも弱さも、美しさも醜さも兼ね備えた人間として生身の人間教師を指導案に織り込みましょう。

その人間性に人々は共感と安心と信頼を寄せるのです。

私たちが教職を選んだということは、**教職**という人生を選んだということだと私は思うのです。

ここに東京都小金井市立東小学校の公開授業用の学習指導案を載せますので参考にしてみてください。

主題名 大切な友達

教材名 「たまちゃん、大すぎ」

B 友情、信頼

3年 1組

田上 由紀子

### 育てたい子どもの心

どんなことがあっても、たまちゃんが大切な存在であることに気付いたまる子の気持ちを考えることを通して、友達を理解し、信頼し、大切にしようとする心を養う。

友達は、家族以外で特に関わりを深くもつ存在である。時には遊び仲間として、時には相談相手として互いに支え合い、助け合い、励まし合っていく存在が親友である。こうした親友を得た時、人の喜びは倍加し、悲しみは半減する。

こうした友情を築くためには、ただ何となく一緒に過ごしているだけではなく、時にはけんかをして、そのかわりを通して相手の存在の大きさやよさの実感をさらに深め、友情の絆を一層固くしていくことが大切である。

本授業を通して児童に友情の素晴らしさと親友の大切さを感じさせたい。

### 授業の流れ

1. 今日はどのような学習をするのかを知る。
2. 教材を読み、主人公の気持ちや考えについてみんなで話し合う。



学習① おなべを見ている時のまる子の気持ちについて

学習② タイムカプセルを探している時のまる子の気持ちについて

学習③ たまちゃんと抱き合っているまる子の気持ちについて

4. 大切な友達について自分の生活をふり返る。
5. 友達のことが書かれている詩を聞く。

